

皆様おはようございます。

社会貢献支援財団の会長を務めさせていただいております
安倍昭恵でございます。

本日は500名以上の皆様にご臨席をいただきまして、第51
回の社会貢献者表彰式典を開催できますことを大変喜ばし
く、また本式典の開催にあたりまして、ご支援いただい
ております日本財団はじめ、候補者を推薦くださいました皆様、
そして関係の各位には心よりお礼申し上げます。

本日は選考委員会におきまして選考された人命救助の功績8件、社会貢献の功績32
件の計40件の活動の表彰をさせていただきます。

人命救助は、海難、水難、火災、交通事故などから自らの身命の危険を冒して救助
された方、社会貢献は日本国内そして海外において献身的に活動されている方々で
ございます。

受賞者の皆様、そしてその活動を支えていらっしゃるご家族はじめ関係者の皆
様に、心から敬意を表しますとともに心からお祝いを述べさせていただきます。

さて私も過去の受賞者の方の活動の現場にお邪魔させていただいておりますが、今
年8月に障がい児の積極的な活動を支援する北海道の「にわとりクラブ」が平成9年
度から毎年全道各地で開催されています「いけませフェス2018 in あつま」にお邪魔
させていただきました。「にわとりクラブ」は、「めんどくさいわ」「いやだわ」の
二つの「わ」を取り除き、障がい児が積極的な活動をする、「いけませ」の「ませ」
は混ぜこぜのませで、障がいのある者も、ない者も共に混ざって生きている社会をつ
くることを目指すという2つをキーワードに活動されています。

全道各地の障がいのある子どもやその家族、そしてサポーターや一般参加者が総勢
1,500人程が一堂に会して多彩に交流するイベントですが、地元ボランティアの協力
のもと、参加者がお互いに助け合って生きるという様子が実感できる一日となりまし
た。

またあわせて、北海道で活動されています、わが国で唯一の精神障害者回復者の当
事者だけで運営されている団体「精神障害者回復者クラブすみれ会」そして病気や障
がいを持つ子どもたちに本を届けられている「ふきのとう文庫」の活動の現場へも
お邪魔させていただきましたが、弱視の子どもたちのための大きな文字の絵本や、フェ



ルトで作られた
たした次第です

本日の人命救
りよ社会づく

皆様方には、
でしょうが、こ
みやすい国にな

本日ご列席の
できます。

受賞者の皆様

表彰選考委員長挨拶(代読)

本日は皆様お忙しいところを、このようにお集まりいただき、盛大に第51回表彰式典を開催できます喜び、有難く思っております。

今回は126件の推薦の中から、人命救助の功績8件、社会貢献の功績32件を選考させていただきました。

人命救助の8件につきましては、自らの命を危険にさらしながらも、他を救助された皆様です。その中で最年少の山口峻(やまぐち たかし)さんは高校時代に3回の人命救助をされています。

社会貢献の32件につきましては、国内26件、海外6件でいずれも他人のため社会のために献身的に尽くされている方々です。この社会貢献部門は、行政の施策が行き届かない狭間に、放っておけないとした民間が手を差しのべる、そこから活動が始まる、という傾向も見えてとれます。

例えば、このほど、国会では外国人労働者の受け入れ拡大の入管法改正案が審議されております。現在、すでに128万人と発表される外国人労働者の数ですが、例えば「関西生命線」の活動、横浜の「信愛塾」の活動は、在日中国人や外国人を支えています。それはいのちの電話であったり、学習支援であったり、多岐にわたっています。

また、東京の「ブラジル人労働者支援センター」は、中南米への移住経験のある早稲田大学OBが中心となり、ブラジルや中南米からの労働者をサポートしています。ああ、こんな形での集まり方もあるのだなと、私はとても印象的でした。

また、笠原五郎さんは今年98歳になられた方ですが、昭和50年代後半から、中国からの帰国者のために、身元保証人となっておられます。旧厚生省時代から役所にかかけあい、すでに100人以上の保証人となり、また日本語を教えておられます。

さらに、森口エミリオ秀幸さんは親子三代にわたって、ブラジルで医療活動をなさっています。後ほど森口さんからお話があると思いますが、ブラジルは世界最大の日系人居住地で、現在は160万人の日系人が暮らしています。過去、彼らは長年にわたり山奥の日系人入植地で暮らしてきたため、ポルトガル語が話せず、一般病院で診察を受けられない状況にありました。森口さんのお祖父様は外務省の嘱託医としてブラジルに派遣されたのですが、そのままブラジル残り、実に昭和5年くらいから彼らのために医療活動を始められました。それは息子、孫へと引き継がれ90年にわたる活動を



代読 選考委員 吉永みち子

続けておられま
療機器を積み込
これはいかに生

ここにお集ま

ら御礼申し上げ

また、曾野綾

「副賞のお金

ことです。「好

きたい」と毎回

て、毎回この場

論されます。

そんな中、つ

立大学の名誉教

品目当てになっ

うという一件に

名誉教授は、

ないと書きます

し、日本人の場

その他多くの場

たのは何ら恥す

無償の寄付要求

もちろん、ふ

長きにわたって

副賞のお金は近

何よりもクリ

感じます。お好

当財団としても

これからも、

続けておられます。孫の森口エミリオ秀幸さんは、冬になると本業をストップして医療機器を積み込んだバスで巡回診療を続けておられます。費用も森口さんが負担し、これはいかに生きとし生ける者すべてへの愛情が深いかを物語っていると思います。

ここにお集まりの40件の受賞者はもとより、推薦いただいた126件の皆様に心から御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

また、曾野綾子元選考委員長は、いつもこの場でおっしゃっておられました。

「副賞のお金は、ぜひご自分やグループのために、私的にお使いください」ということです。「好きなお洋服を買ったり、グループで温泉旅行に出かけたりしていただきたい」と毎回おっしゃっておられました。後を継いだ私も曾野元委員長の言葉として、毎回この場でお伝えするのですが、必ず「自分のためなんかに使えません」と反論されます。

そんな中、つい先日読んでいた雑誌で、とても興味深い文章を読みました。ある国立大学の名誉教授がふるさと納税について書かれたものです。ふるさと納税は、返礼品目当てになっていると問題にした前総務大臣を中心に、返礼品金額の上限を決めようという一件についてです。

名誉教授は、それは愚かなことだとし、寄付に対する日本人感覚が全く分かっていないと書きます。キリスト教徒の場合、無償で名誉も明らかにせずに行われる。しかし、日本人の場合、神社の石製の玉垣にはすべて寄付者の氏名が彫り込まれており、その他多くの場合、無名の寄付ではないと書きます。ふるさと納税で返礼品を受け取ったのは何ら恥ずることではなく、正常であり、こうした日本人感覚を無視して、無名無償の寄付要求をしては、あっという間に崩壊するであろう、と書いていました。

もちろん、ふるさと納税とこの賞は一緒にできませんが、ここにお集まりの皆様は長きにわたって無名無償で支援活動をなさってきた方々ばかりです。であればこそ、副賞のお金は返礼としてお好きなようにお使いください。

何よりもクリスチャンである曾野綾子元委員長がおっしゃったことに、私は意味を感じます。お好きに使っていただき、それが活動を続けるモチベーションになれば、当財団としてもこんなにうれしいことはありません。

これからも、どうぞ宜しく願い申し上げます。

公益財団法人 社会貢献支援財団

選考委員長 内館牧子